

「北海道」という名前の由来や命名の経緯を探ってみよう!

北海道の名付け親 **まつうら たけしろう**
松浦 武四郎

探検家・地誌学者・作家・出版者などさまざまな顔を持ち、江戸時代の終わりから明治時代にかけて活躍1818(文化15)年、伊勢国(現在の三重県)に誕生。生涯にわたって全国を歩き続け、現地で見聞きしたことを記録し、自ら地図や書籍などを出版した。



三重県松阪市 松浦武四郎記念館 提供

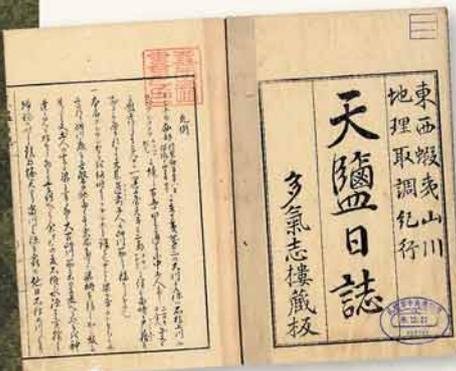
当時「蝦夷地」と呼ばれていた北海道を訪れたのは28歳の時

長崎で住職をしていた時に、ロシアが蝦夷地へ勢力を拡大しようとしていることを知り、蝦夷地を調べてその様子を多くの人へ伝えることを決意。1845(弘化2)年に初めて蝦夷地を訪れてから、約13年間で計6回の調査を実施した。

六つの候補から選ばれた「北海道」

松浦武四郎は明治政府の命を受け、1869(明治2)年、「蝦夷地」に代わる名称として「北加伊道」「日高見道」「海北道」「海島道」「東北道」「千島道」の6案を提案。同年8月15日に明治政府が「北加伊道」の「加伊」を「海」に改め「北海道」と決定した。

◀松浦武四郎の著書『天塩日誌』には、アイヌ民族の長老から「カイという言葉には、この地で生まれたものという意味がある」と教えられたと記されており、案の一つ「北加伊道」の由来になったといわれている



札幌市中央図書館蔵

松浦武四郎と札幌の関係や北海道の歴史を感じられるスポットを見てみよう

松浦武四郎と札幌

札幌の礎を築いた島義勇へまちづくりについて提案

松浦武四郎は著書『西蝦夷日誌』で「札幌、豊平の辺りぞ大府を置の地なるべし…」と現在の札幌とその周辺の都市計画に関して述べており、これを、後に札幌を訪れ札幌本府の建設に着手する島義勇に提案したとされている。

道中に訪れた定山溪で温泉を発見

1858(安政5)年にアイヌの人たちの案内で蝦夷地を探検した際に、定山溪で温泉を発見。雪の中に湧き出る温泉に入って、旅の疲れを癒やしたといわれている。

歴史を感じられるスポット

北海道の道路の起点を示す柱・北海道里程元標

1873(明治6)年、北海道の道路の起点であることを示すため、創成橋の東側(中央区南1東1付近)に「北海道里程元標」が設置された。現在ある標柱は、北海道開拓の起点であるこの場所を後世に伝えるため、2011(平成23)年に札幌市が再建したものの。

▶標柱の東面・西面には銭函や篠路など、それぞれの場所までの距離が示されている



札幌の歴史
あれこれ
No.02

今や196万人以上が暮らす街へと発展した札幌の歩みを振り返るこの企画。今回は、8月に命名150年を迎える北海道を紹介する特別版です。
問い合わせ 広報課(211)2036



その先の、道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.